

本宮市自主的財政健全化計画の 平成26年度実績を報告します

本宮市では、『本宮市自主的財政健全化計画』を策定し、市民の皆さんへのサービスの維持向上を図りながら、将来にわたって安定した財政運営ができるように取り組んでいます。平成26年度の決算が確定し、『本宮市自主的財政健全化計画 平成26年度実績』がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

● 歳入

平成26年度の歳入総額は、計画額（※1）約127億6千万円に対し、約238億3千万円の実績額となり、計画額を約110億7千万円上回りました。

これは、住宅除染などの放射能対策および復興公営住宅整備や子ども屋外プール施設整備のための財源として、国県支出金が増えたことが主な要因です。（表1参照）

※1 計画額は、『本宮市自主的財政健全化計画』第三次改訂版（平成26年3月策定）の計画額を指します

● 歳出

平成26年度の歳出額は、計画額約127億6千万円に対し、

約227億1千万円の実績額となり、計画額を約99億6千万円上回りました。

これは、住宅除染やスマイルキッズパーク記念樹の杜屋外あそび場（プリンス・ウィリアムズ・パーク）整備などの放射能対策に要する事業費および公共土木施設災害復旧に要する事業費が増えたことが主な要因です。（表2参照）

● 形式収支（歳入と歳出の差額）

形式収支の実績は、約11億2千万円でしたが、その中には平成27年度に繰り越すべき財源が約3億3千万円含まれているため、実質的な収支は約7億9千万円となり、黒字決算になりました。（表3参照）

表2【平成26年度歳出】

区 分	計画額	実績額
人件費 (職員の給与、議員報酬など)	22億9千万円	22億1千万円
物件費 (消費的性質の経費。需用費や旅費など)	16億4千万円	67億8千万円
維持補修費 (道路や建物の修繕費など)	7千万円	1億円
扶助費 (生活保護費や児童手当などの給付金)	12億4千万円	15億3千万円
補助費等 (補助金、報償費など)	20億8千万円	17億9千万円
公債費 (地方債の元利償還金など)	10億6千万円	10億4千万円
積立金 (財政調整基金などの貯金)	1億3千万円	25億3千万円
投資及び出資金・貸付金	8千万円	8千万円
繰出金 (特別会計への支出金など)	17億6千万円	18億6千万円
投資的経費(道路、橋、公園など社会資本の整備に要する経費)	23億9千万円	48億円
歳 出 総 額 (※3)	127億6千万円	227億1千万円

表3【形式収支（歳入と歳出の差額）】

区 分	計画額	実績額
歳 入	127億6千万円	238億3千万円
歳 出	127億6千万円	227億1千万円
形 式 収 支	0千万円	11億2千万円

表1【平成26年度歳入】

区 分	計画額	実績額
地方税 (市民税や固定資産税など)	37億9千万円	39億4千万円
地方譲与税 (国税の一部を地方の財源として配分するもの)	1億8千万円	1億7千万円
各種交付金 (地方消費税・交付金など)	5億7千万円	4億5千万円
地方交付税(市町村の状況により国から地方に分配される交付金)	37億8千万円	38億8千万円
分担金及び負担金	1億1千万円	1億2千万円
使用料及び手数料	1億4千万円	1億5千万円
国・県支出金	20億5千万円	109億9千万円
財産・寄附金・諸収入	1億9千万円	4億3千万円
繰入金	5億3千万円	12億3千万円
繰越金(前年度からの繰越金)	0円	8億9千万円
地方債(※2) (市町村が行う長期の借入金)	14億円	15億8千万円
歳 入 総 額 (※3)	127億6千万円	238億3千万円

※2 地方債には建設事業の財源として借入れするものや、本来地方交付税として国から交付される額の一部を市町村が代替えとして借入れする臨時財政対策債があります。臨時財政対策債の返済分は、後年度の地方交付税に上乗せされます

※3 表示単位未満の端数処理の関係で合計が一致しない場合があります

● 財政健全化指標の状況

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」では、財政の健全度を判断する指標を定めています。本宮市ではいずれの指標も「財政再生団体」や「早期健全団体」の基準を超えてはなりません。

健全化計画では、判断指標のうち「実質公債費比率（※4）」について計画値を定めており、平成26年度の決算より算出される比率は、12.8%となり、ほぼ計画どおりの値になりました。

この値は、適正化計画基準（18%）以内であり、本宮市の実質公債費比率は適正圏内となっております。今後も健全財政への取り組みを継続します。

※4 実質公債費比率：… 毎年度の経常的な収入に対する借入金返済金の割合

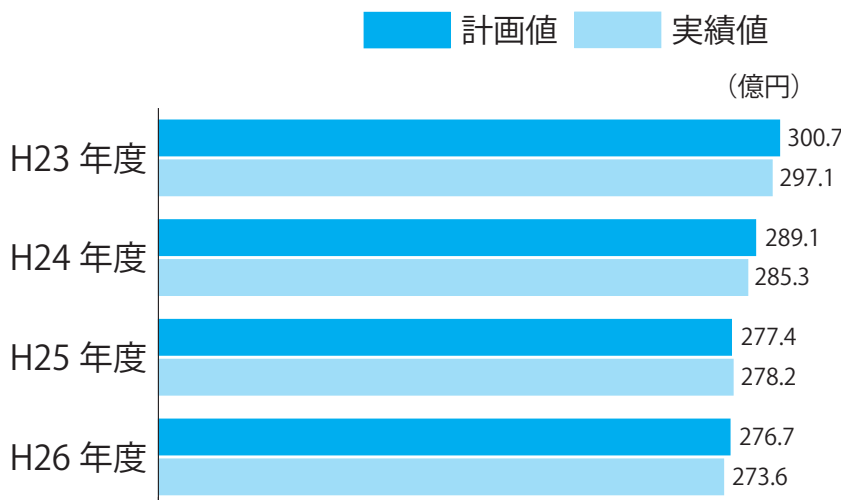
● 債務（借金）残高の状況

平成26年度末の市の債務残高の合計は、計画額約276億7千万円に対し、新たな借り入れが少なかったことなどから、約

273億6千万円の実績額となりました。（グラフ1参照）

なお、債務残高のうち、臨時財政対策債（※2参照）の残高は、約63億8千万円となり、全体の23.3%を占めています。

グラフ1 【債務残高（全会計）】

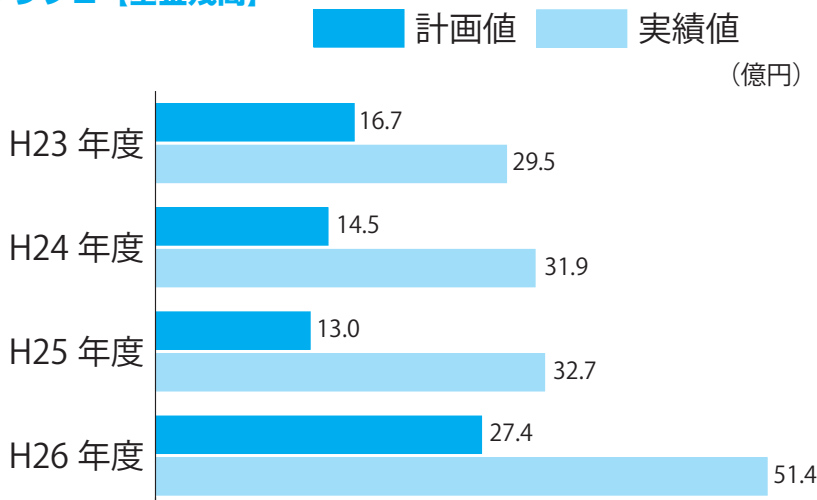


※地方債（市債）と債務負担行為の合計額。地方債は元金、債務負担行為は元利金となっています。

● 基金（貯金）残高の状況

平成26年度末の市の基金（貯金）残高は、計画額約27億4千万円に対し、実績額は約51億4千万円でした。計画と比べ増加しているのは、新設した復興公営住宅整備のための長期避難者生活拠点形成基金の約20億3千万円が含まれていることが主な要因です。（グラフ2参照）

グラフ2 【基金残高】



基金残高のうち、財政調整基金（※5）の残高は、約17億3千万円となっており、計画額の約15億1千万円よりも約2億2千万円上回りました。

その他、後年度の事業に備えるための震災・原子力災害復興基金や教育施設等整備事業基金などが積み立てられています。

※5 財政調整基金：… 年度間の財源の不均衡を調整するための基金

「本宮市自主的財政健全化計画 平成26年度実績」の詳細内容は、本宮市のホームページ上で公開しています。

問 政策推進課 政策推進係
☎24-5321